

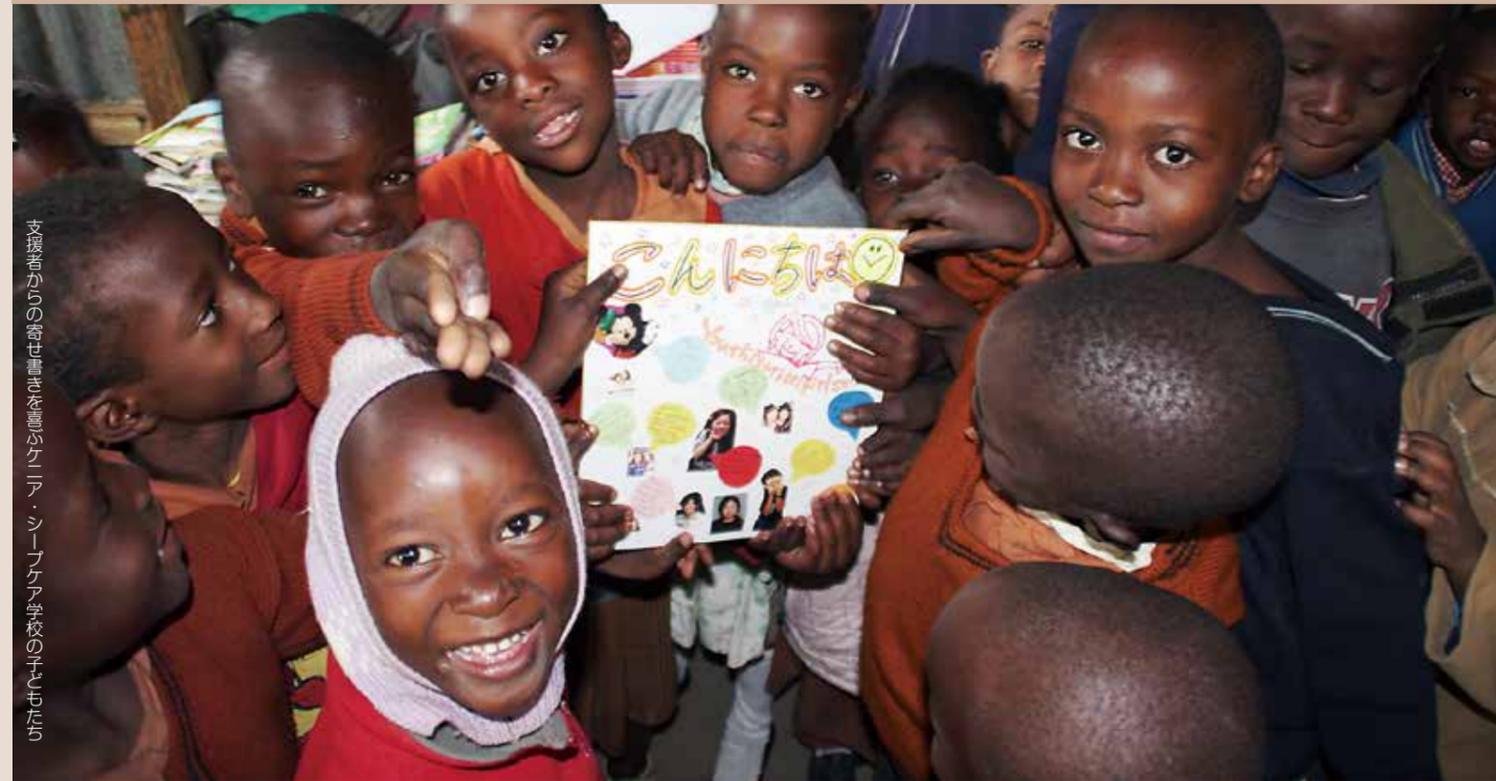


日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20ヶ国60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころからだの飢餓」に応える働きをしています。

1分間に17人(内12人が子ども)
1日に2万5,000人
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています。

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



支援者からの寄せ書きを喜ぶケニア・シーブケア学校の子どもたち

ほっこり、あんしん お茶セット

協力企業キングダムビジネスから

- ①モカ・ブレンド 200g ⊗ 870円
芳醇な風味のレギュラーコーヒー
- ②トラディショナル・ホットチョコレート(ココア) 200g ⊗ 650円
カカオの風味豊かな大人のココア、温めたミルクや豆乳でほっこりを
- ③アールグレイティー リーフ 60g ⊗ 650円
爽やかな香り、ベルガモットオイル配合
- ④非常備蓄食 パンの缶詰 100g ⊗ 430円
オレンジ、レーズン、ストロベリーからおまかせで1缶



送料込み 3,400円を 3,000円(税込)で。
※但し北海道と沖縄は追加送料 800円必要。
プラス税込 800円でパンの缶詰を3缶に増やすことができます。今回のみの限定。
【お申し込み】 株式会社キングダムビジネス
〒540-0026 大阪市中央区内本町 1-4-12NPOビル 402
TEL: 06-6755-4877 FAX: 06-6755-4888

愛知事務所移転のお知らせ

当機構愛知事務所が3月12日(木)に現在の昭和区鶴舞から中区千代田に移転します。
【新住所】〒460-0012
名古屋市千代田2-19-16 千代田ビル3F
新しい電話とFAX番号はわかり次第、ウェブサイトで音声案内でお知らせします。

夏の海外キャンプのお知らせ(詳細次号)
ボリビアとフィリピンで実施いたします。

カンボジア里子訪問ツアーのご案内 世界里親会

訪問地: カンボジア アンロンベン地区
日程: 2015年5月12日(火)~16日(土)
参加費: 15万円の予定



里子や家族との感動的な出会い

本年7月に自立支援の完了を迎えるトゥールトゥベン村とタクチョップ村を訪問し、記念式典に参加、子どもたちや地区の皆さんと交流いたします。また新活動地のスパイラー村も訪問予定です。

資料のご請求・お問合せは大阪事務所
☎072(920)2226 世界里親会まで。

ハンガーゼロ サポーターを大募集中!!

現在...
3848口

今すぐ各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類を送らせていただきます。お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。毎月()口 (1口1,000円)
- チャイルド・サポーター(世界里親会)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフ・サポーターとして協力します。毎月()口 (1口1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。毎月()口 (1口500円)
- 今回に限り()円協力します。
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____

フリガナ 住所: _____

..... (電話) _____

▼申込日: _____年 月 日▼NL 296号

FAX・072-920-2155

●書き損じ年賀はがき(私製以外)や未使用切手を大阪事務所にお送りくださいませんか。

もし...この子が自分だったら?

日本国際飢餓対策機構 啓発総主事 田村治郎

国内啓発の働きの中で、特に喜びを感じ、やりがいを感じるのは小学校での講演です。主に高学年の児童に話す機会が多いのですが、世界にある飢餓の現状や同じ年代の子どもたちがどのような厳しい現実の中で生きているかを真剣に耳を傾けて聞いてくれる姿にいつも感動を覚えます。

しかし一つの懸念があります。それは、途上国の子どもたちの現状がどこまで児童の皆さんに届いているだろうかということです。1日に1食すら食べられない子どもがいる、5秒に1人の子どもが飢餓が原因で亡くなっている、貧しさのために学校に行くことができない、将来の夢は大人になること、など。日本ではどれをとっても当たり前前に実現可能なことです。食べられる、自由に勉強ができる、夢に向かって努力することが許されている。それが許されないということがどれほど厳しく悲劇であるか、使う言葉を選び、表現方法に工夫をして伝えています。

ある時、私たちが制作した映像に対してネット上で次のような書き込みがありました。「こういった国々に、なんで募金を集めるんでしょう?こいつら、育てもできないのに子どもを作って死なせる、要は放置死させる犯罪者。(中略) 食わせてやれと集める意味が分かりません」。言論の

自由、表現の自由があるといっても、原文をそのままご紹介できないような内容でした。この発言の根拠は何だろうと考えました。思い込み、偏見?しかし、一番の問題は想像力だと思います。自分はあくまでも豊かな世界にいて、貧困や飢餓に喘ぐ人々をひとりよがりの論理で裁き結論付けている。「なぜ?」と問いかけるのではなく安全な場所から見下す、思い上がった心ではと感じます。

小学校でいつも皆さんにお願いするのは、スクリーンに映し出される途上国の子どもたちや人々を見て、遠い国の人々ではなく、その人が「もし自分だったら?」と考えながら講演を聞いてくれるように、ということです。もし自分が「そんな国に生まれたから飢えるのも貧しいのも仕方がない」と豊かな国の人々から言われたとしたら、どうでしょう。可哀そうと思う心も大切でしょう。しかし、もっと大切なのは「もし自分だったら」と想像力を働かせることではないかと思うのです。そこから人々の痛みを、そして生きる喜びを共有し、善き隣人として共に生きる「善隣共生」が生まれてくるのではないのでしょうか。大人である私たちも然りです。

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」(聖書)

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155

東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782

東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2階 E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651

愛知 〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F
TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114

広島 〒730-0036 広島市中区袋町 4-8 CLC ブックス 2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037

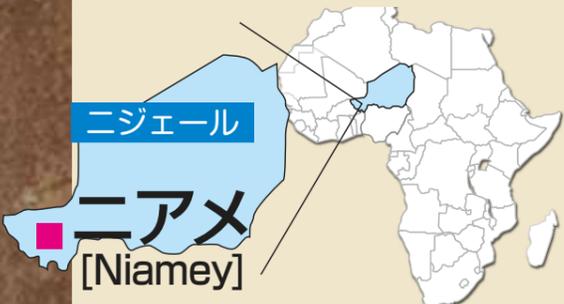
沖縄 〒900-0033 那覇市久米 2-25-8 メゾンズ 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216

USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月 飢餓対策ニュースを皆様にお届けするた
めに、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛
関西地区のボランティアの皆様が送付作業のご
協力を下さっています。



ニジェールで多数の施設襲撃される 伝紙への抗議デモが暴徒化



火災現場では現在も試練が続く...

首都で放火や略奪

フランスのシャルリー・エブド1/14特別号に掲載されたイスラム教預言者ムハンマドの風刺画に抗議する過激派グループによって、西アフリカ各地でフランス文化やキリスト教にゆかりのある施設が次々と略奪や放火に遭いました。

ニジェールでは、特に多くのキリスト教会、学校、教会員の家が被害を受けています。JIFHの現地パートナー、ジャック・カンニデ牧師の教会は、最初に襲撃されて全焼しました。現在は教会の横にテントを張って礼拝しているとのこと。

〈ジャック師の報告〉

「1月16日の金曜礼拝の後、過激派に率いられた数百人の若者が、ジンデルの町（首都ニアメから925km）で町中のキリスト教会と教会関係者の家を襲撃しました。翌日には首都ニアメで68のキリスト教会、ミッションスクールなどが、過激派グループによって放火されまし

た。今回の襲撃では、ニアメの教会で見つかった焼死体を含めると死者は10人、200家族400人の教会員がニアメとジンデルの軍施設に避難しています。また、マラディとジンデルに住む134人がニジェールを出国しました。」

焼け跡の中でも...

ソマイラ・ラボ牧師は、自宅と家財道具一式を焼失し、数々の蔵書も燃やされてしまいました。ラボ師は、「とても残念なことです。私は全てを失ってしまいました。けれども、信仰は失っていませんし、死ぬまでそれを失うことはありません。」と話しています。ニアメの福音バプテスト教会の牧師は、「礼拝堂の灰の中に立ってでも神様を賛美し続けます。」と言い、事件直後の日曜日にはそれを

被害に遭ったほとんどの教会は、

現在警察の監視下に置かれています。さらに悲しいことに焼失した礼拝の場を汚物で汚す行為が行われています。夜間に教会に来て、排泄していく人々がいるのです。ニアメは、表面的には平静を取り戻しつつありますが雰囲気は重苦しく、私たちの心は教会や家を失った悲しみに張り裂けそうです。そして多くの教会員が恐怖の中で暮らしています。

JIFHはこれまで教会を通して、ニジェールの飢餓・貧困に苦しむ人々を支援してきました。

今回被害を受けられた方々をはじめとして、これまでの支援も滞ることのないように協力してまいります。皆様からの応援をよろしくお願い致します。



食糧支援2013年

「ハンガーゼロ・サポーター」(1,000円/月) となってアフリカで様々な困難の中から立ちあがる人々を応援ください。

HUNGER ZERO チャリティーライブ with Emi Shirasaya



会場：お茶の水クリスチャンセンター

2015年1月24日(土)、東京都千代田区のお茶の水クリスチャンセンター(OCC)8階チャペルで「HUNGER ZERO チャリティーライブ with Emi Shirasaya」が開催されました。企画してくださった白鞘さんは、2014年にアフリカンレストランでJIFHが世界食料デーイベントを行った際にゲストとして出演してくださった方です。

白鞘さんはJIFHスタッフの話から、初めて世界の飢餓の状況や日本と世界の飢餓との関わり、また日本での食品ロスや食べ残しについて知り、遠い国の話と聞いていたことが実際は自分たちの生活と密接につながっていることにショックを受けたということです。そして食べることが大好きな自分に何が出来るか考えたとき、自分の音楽を通して伝えていけると気づき、このチャリティーライブを企画してくださりました。

ライブは、食べ物や水の大切さを訴えるビデオから始まり、白鞘さんの力強い魂に響く歌、ご自身が翻訳を手がけたワーシップソングも披露され、「飢餓に関心を持ってきていただいた方も、そうでない方も、共に良いきっかけになればいいな」と呼びかけられました。

スペシャルゲストにゴスペルシンガーのシャニータさん、メリッサさんも参加、豪華ゲストに盛りだくさんのプログラムで140人の人たちが楽しいひと時を過ごしました。

里子支援を増やしたい

- ほんとうに素晴らしいコンサートでした！来てよかったです。飢餓に苦しむ子どもたちのお話もとてもわかりやすく、心打たれました。
- いろいろ考える機会になりました。またぜひやってほしいです。
- 自分はウガンダの男の子の里親をしています。今後増やしていきたいと思っています。

と感想を書いてくださった方もありました。

ロビーではハンガーゼロ・コーヒーやフェアトレード商品の販



売があり、白鞘さんもCDを販売し、募金してくださいました。

多くの方のご支援により合計90,880円の募金があり、チャイルドサポーターやハンガーゼロサポーターも与えられました。

ご協力くださったお1人おひとりに心から感謝いたします。またこのようなイベントを開催したいと願っています。是非お越しください。

(報告：東京事務所・福地)

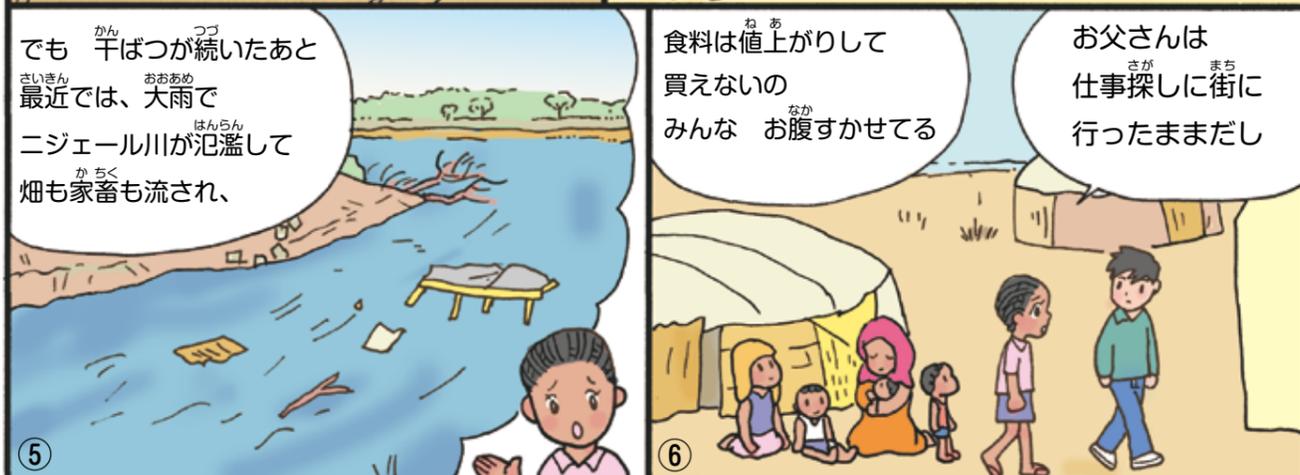
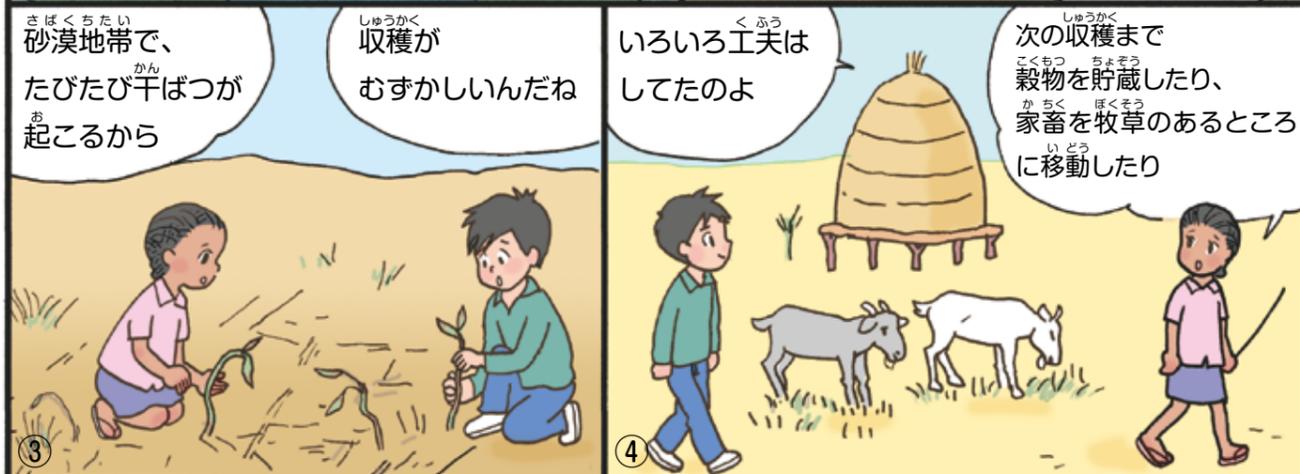


「わたしから始める、世界が変わる」支援イベント等開催についてのご相談は、各事務所にお問い合わせ下さい

食べ物があるのに飢えるのはなぜ？ え/みなみなみ

シリーズ ①

食べ物があっても食べられない



資料コーナー

世界で生産される穀物はどのように利用されているでしょう？				
利用されている穀物の量 (億トン)	人が食べる (%)	家畜の飼料 (%)	その他 (%)	
世界	23.2	43.7	35.3	21
日本	0.32	42	46	12
米国	3.25	10	38	52
EU	2.8	23	60	17
食料不足の国	5.7	75%	11%	14

FAO STAT2014



日本やアメリカ、ヨーロッパの工業先進国といわれる国では、人が食べる穀物の量より、家畜が食べる量のほうが多いことが分かります。自給率の低い日本では、利用されている穀物のうち80%以上が外国から輸入されたものです。又お肉になる家畜の飼料は92%が輸入品です。

昨年10月16日の世界食料デー前後の約1ヶ月間、飲食店に呼びかけて特定のメニューからおよそ30円分(アフリカ・ケニアの学校給食1食分)を寄付していただく、「世界食料デー・フードイベント」への参加をお願いしました。このイベントに9月17日~10月16日の1ヵ月間、協力して下さった名古屋市内の喫茶店「YUMEYA(ゆめや)」のオーナー、山口峯生さんにお話を伺いました。



バリアフリーでみんながくつろげる店内

YUMEYA
ゆめや

フードイベントで世界の現状伝える

Q 「フードイベント」に参加を決めてくださったきっかけは?

A 数年前に世界の飢餓問題に関するニュースを見て、日本は食料廃棄大国で肥満人口も増えている一方で、世界には日々の食べ物さえ手に入れることができない人々がいるという現実を知り、衝撃を受けました。飲食店を経営する者として、この問題に対して何か行動することができないかと調べていて、JIFHの活動を知りました。それ以降、JIFHの地球型募金を

箱を置いてお客様に協力をお願いしたり、店内で不定期に行う音楽チャリティーイベントを通して世界の現状を伝える活動をしてきました。今回の「フードイベント」は、世界の現状をより多くの方に伝えることができますし、具体的にアフリカの小学校の給食支援ができるので参加しました。

共生を当たり前

Q YUMEYAはどのようにして誕生したのですか?

A この店は、さまざまな障がいの垣根を超えて共に生きる者同士が普通に集うことのできる場所を!という思いで始めました。

以前は、障がいのある子どもと健常児が共に過ごす夏のキャンプを長年主催していました。約1ヵ月間のキャンプ生活の中で、初めは障がいのある子をさけていた子どもたちが、次第に一緒に遊び始めるようになり、終盤には共にいることが当たり前になっていきました。その変化に、障がいのある人との共生が当たり前の社会を築くことの大切さを思いました。今や私たちは日本国内の問題だけではなく世界に目を向ける必要がありますね。共に生きるとは、世界の人々との共生を考えることにも繋がっているように思います。

お店 名古屋市南区戸部下1-3-18 (駐車場有)
電話052-823-8925 OPEN 9~18 8:00-18:00

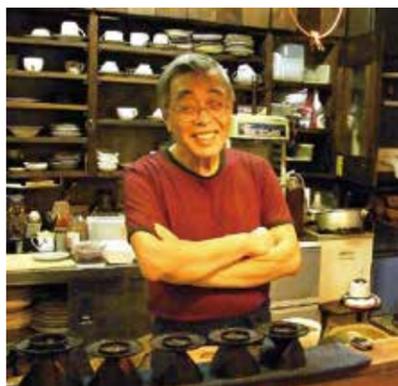


日替りランチ通常価格400円(ドライカレー、台湾やきそば【写真】、三色丼、マーボ丼など)。安くてうまいと評判で、14時前に売り切れることも。

Q YUMEYAの名前の由来は?

A 開業を考えている時に車で「ゆめや」という手芸店の前を通りかかった時、子どもが「ゆめやはどうお?」といったひとりで決めました。「夢」という言葉は好きで、娘の名前にも夢の文字を入れています。お店を訪れた人たちに夢を持って欲しいという思いを込めてつけました。

今回はランチの通常料金に30円を上乗せしてお客様に呼び掛けてくださり、571食分、さらにコーヒー973杯分の代金の一部もご寄付いただきました。ご協力を心より感謝申し上げます。昨年のフードイベントで頂いた寄付金はケニア・南スーダンの学校給食支援、コンゴ民主共和国の難民食糧支援のために用いさせて頂きました。



みんなに「夢」をもってほしいとオーナーの山口さん ⑤店内に置かれている地球型募金箱、募金の趣旨説明のチラシも作成されていました。

親善大使の小堀英郎さん(ピアニスト)とManamiさん(歌手)が昨年11月に当機構の活動地フィリピンを訪問。NL1月号のManamiさんに引き続き、今回は小堀さんの訪問記を掲載いたします。



ティボロ小学校。右の写真は子どもたちと小堀大使(左端)

親善大使の活動地訪問 フィリピン



子どもたちの教育現場の課題を実感

日本では朝晩の冷え込みが感じられる11月も、飛行機で約4時間のフィリピンは空も山肌の色も眩しい常夏です。今回の旅は、昨年日本国際飢餓対策機構の親善大使に就任したため、支援の現場を見せていただくものでした。

旅の前半には、南部地方ミンダナオ島アポ山の小学校を訪問しました。首都マニラから飛行機で2時間のダバオへ飛び、空港から車で1時間半の移動。さらにトラックの荷台に乗せられ、標高1,000mのティボロ小学校を目指します。この小学校には日本の里親さんの支援によって教育を受ける機会が与えられた多くの子どもたちが元気に勉強に励んでいます。

学校の衛生状態は改善

学校正門に降り立ち、子どもたちからの歓迎を受けます。校門の外まで生徒が溢れ、気がつけば全校生徒がグラウンドで出迎えてくれました。一人一人手を取り、こちらの手の甲を彼らの額に当てて敬意を表す挨拶をします。彼らの屈託のない笑顔は忘れられません。ここでは皆様からのJIFH

を通しての支援により、今までなかった男女別トイレや貯水タンクが設置されるなど衛生状態の改善によって学校としての機能が形になってきていました。また2年前に開校した高校では現在2学年が



学んでいて、教育現場も充実し始めています。

一方で、足元の悪い山道を毎日遠くから歩いて学校へ通っている生徒がいます。また、親が出稼ぎに出ていて、祖父母や親戚と暮らしている生徒もいると聞きました。彼らの笑顔の奥に複雑な表情が隠れているようにも取れます。学校側は生徒の家族や地元住民とのコミュニケーションを大切に、情報を共有しながら子どもたちのケアに努めています。将来の夢ある子どもたちの教育現場の充実が何よりの課題と感じました。

そこにある資源を生かす支援

旅の後半はミンドロ島へ渡り、マンヤン族の住むシド村を訪ねました。徒歩での川渡りやジャングル越えも初の経験でした。この村ではハンズ・オブ・ラブ・フィリピン代表の酒井保駐在員をはじめ現地スタッフが村人の生活改善のために、識字クラスやそこにある資源を利用し女性たちによって収入を増やすプロジェクトなどを行い、村人の自立への支援を行っています。スタッフは地元の人でも決して楽ではないルートを行き来し、村人との信頼を築くために定期的に訪問をしながら地道に交流を図ります。電気も水道もない村ですが、学校が建てられそこに寝泊まりして教える先生や、元気に学ぶ子どもたちの姿があります。この子どもたちが変わると、その村が変わります。その村が変わると、その国が変わります。私たちが協力して、次世代がその恩恵を受け継ぐことのできる村へと変えられ、人々の自立へとつながるように祈るばかりです。

親善大使を招いてのチャリティーコンサートを開催しませんか? まずは大阪事務所までご連絡をお願いします